



空雲寺

郷土の歴史を楽しむ会



2025年11月

活動のお知らせ

近藤比呂史 (30期) 080-3688-2590
奥野 幸泰 (31期) 090-6093-0183

R7年 11月度定例会「港区：百曲街道&番割観音」

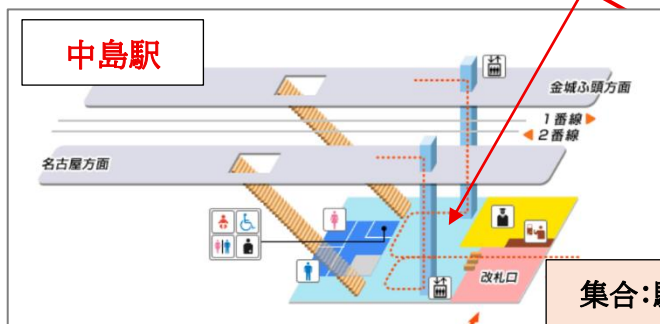
令和7年11月度の活動を企画しました。気軽にご参加ください。

“^わ輪・^わ和・^わ笑”を大切に、楽しい同好会にしていきたいものです…

☆日 時 : 令和7年11月4日(火) 9:30~14:00

☆集 合 : あおなみ線中島駅改札構内 9:30

名古屋9:10発⇒中島9:20着



集合：駅構内のチャージ機付近

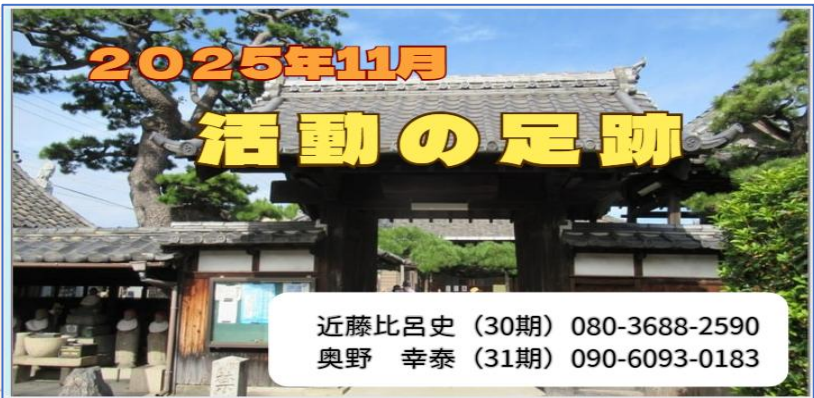


☆行 程 : 中島駅駅前広場 ~ 20番割観音 ~ 21・22・23番割観音 ~ 25番割観音
~ 26・27・28番割観音 ~ 空雲寺 ~ ランチ(オプション) ~ 中島駅

☆費 用 : 100円(資料代) ※ 参加入力締め切り：10月28日

※番割観音堂は正保4年(1647)、藩営で始められた熱田新田の干拓で、慶安二年(1649)に完了し、慶安四年(1651)検地が行われた。土地を一番割から三十三番割までに区画し、区画された各番割に西国三十三か所観音に擬した観音を、その土地の守護仏としたのが番割観音である。





R7年11月度:定例会「港区・百曲街道と番割観音散策」

R7年10月4日(火) 9:30 ~ 14:00

☆行 程 中島駅前広場 → 20番割観音 → 21.22.23番割観音 → 25番割観音
→ 空雲寺 → ランチ (浜木綿昭和橋通店)

*名古屋市16区散策では、最後となった港区の散策。江戸時代初期からの干拓によって、大規模な新田開発が繰り返され、今の港区の原型が形成されました。今回は尾張徳川家が主導した「熱田新田と番割」の地を散策しました。農業地帯から工業地帯へと変貌してきた当地では、昔の町並みに触れることはできませんが、歴史の変遷と人々の観音信仰を想像するまち歩きになりました。そして、散策後は恒例のランチタイム。新しい仲間と交流を深める楽しい時間になりました。(16名参加)



港区:熱田新田と番割観音

・名古屋市港区の江戸時代の干拓事業は、新田開発を目的として行われました。この地域の遠浅の海や干潟は干拓に適しており、江戸時代を通じて継続的に進められました。これにより、港区の土地の大部分が形成され、その後の発展の礎となりました。

・江戸時代の新田開発は、米の増産と藩の財政基盤の強化が主な目的でした。当時は米の生産量(石高)が経済力を示す重要な指標だったため、積極的に干拓が行われました。

干拓事業は、最初は藩が主導していましたが、次第に豪農や豪商が私財を投じて行うようになりました。特に、*鬼頭景義(きとうかげよし)*という人物は、私財を投じて多くの新田と用水路を開発し、生涯で約23,000石もの新田を拓いたと言われています。

・観音信仰:「観世音菩薩」または「観自在菩薩」と呼ばれ、「苦しむ人々の声を聞いて救う」慈悲の仏として知られています。中国から日本へは奈良時代に伝来し、平安時代にはすでに広く信仰されていました。(三十三観音霊場)
江戸時代には、「現世利益(げんぜりやく)」を願う庶民信仰として観音信仰がますます盛んになりました。

